

## 令和 6 年度第 3 回子ども子育て会議（令和 6 年 10 月 21 日開催）におけるご意見等について

No.	意見等	回答
1	<p>出生数の低下、人口減少が続いているが、市として出生数の目標をどこに設定するかという観点で計画を検討していく上で必要なのではないかと。現在の子どもたちへの支援策などについては、多く記載されているが、これから生まれてくる子供たちへの対策があまりないように感じる。</p>	<p>出生数の低下は社会構造の変化などに起因するため、こども計画で出生数の目標設定をすることは困難と考えます。</p> <p>2023 年度に福岡県で実施したアンケート調査「子育て等に関する県民意識・ニーズ調査」では「少子化対策に必要な施策」について以下のような結果となっています。必要と思われる施策についての本計画における位置づけは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的な支援の充実（29.7%）→施策の方向「2-（3）」「3-（1）」</li> <li>・若者の就労支援や賃金上昇（16.9%）→施策の方向「1-C-（1）」</li> <li>・子どもを安心して育てられる環境の整備（16.1%）→施策全てに共通する事項</li> <li>・女性が仕事を続けられる環境の整備（11.7%）→施策の方向「3-（3）」</li> <li>・出会いの場を提供して結婚の手伝いをする事業の実施（5.6%）→県の事業として、県のこども計画に記載される予定です。</li> <li>・男性が育児に関われるような環境の整備（5.1%）→施策の方向「3-（3）」</li> </ul> <p>少子化対策としては、上記の施策などを複合的かつ継続的に実施していくことが必要であると考えます。</p>
2	<p>古賀市は子育てがしやすいと感じている転入者の声が多く、それをもっと外に発信すべきではないか。</p>	<p>素案 p 5 6 の 1-A-（2）「親子の成長と交流の場の支援」のリード文に「子育て情報の積極的な発信」という文書を記載し情報発信に努めることとしています。乳幼児期のみならず、すべてのステージにおいて情報発信は必要であるため、ライフステージに共通する事項として、p 6 9 の 3-（2）「地域における子育て支援の充実」のリード文にも「さまざまな手段を活用した情報発信に努めます」という文言を追加します。</p>
3	<p>子どもの権利に関して、子どもの意見を取り入れているかという質的な面をどう評価し、活用していくかが重要な課題だと思う。</p>	<p>非常に重要な視点であると認識していますが、質的な面の評価について把握していくことは難しい面があります。計画を推進していくうえで、考慮していくことが必要だと考えます。</p>

4	子育て情報を適切に届けるときにどのように効果的に子育て支援の情報を届けるかが課題だと思う。さらに掘り下げて検討する必要があるのでは。	インターネット上にはさまざまな情報があふれる中、子育て世帯が情報に惑わされることがないように正しい情報を届けることが重要です。市では令和5年度より公式 LINE の活用をはじめており、今後も受け取り手のニーズにあった発信方法の検討が必要であると考えています。そのため、素案 p 5 6 の 1 - A - (2)、p 6 9 の 3 - (2) のリード文に「さまざまな手段を活用した情報発信に努めます」という文言を追加します。
5	p.25 の子育て環境や支援に対する満足度調査において、44.3%という結果が出ているが、「普通」という回答がどちらにも振り分けられていないため、この数値が低く見積もられている。今後は、満足度を向上させるために、「普通」と答えた人の扱いや質問項目の再検討が必要だと思う。	満足度調査は回答者が回答しやすいよう 5 段階で実施しています。ご意見を踏まえ、満足度を向上させる視点でいえば、指標を「やや不満」「満足度が低い」を選択した人の割合を減らす方が適切と考えるため、指標をそのように変更します。
5	各小中学校で正規の教員の定数満たせているか確認してほしい。どの小学校、中学校でどれだけの人手が不足しているかを子育て会議の委員が把握しておく必要があると思う。現状を少なくともこの委員会で共有しておきたい。	今年度人事異動内示時点では、定数を満たしていたものの、その後講師の辞退や産前産後休暇や育児休業などにより、一部欠員が出ている状況にあります。
6	部活動活性化事業について、今後地域展開も進んでくるが、掲載事業にもかかわってくる内容のため、部活動活性化事業の方向性についての資料を提供してほしい。	現在、古賀市部活動地域移行等検討委員会で検討を重ねており、答申を作成中です。（参考：保護者向け案内文書）
7	子どもの声を聞くという点で、具体的にどのような事業において、子どもの意見や関係者の意見が取り入れられているのかについて伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【第2期古賀市子ども・子育て支援事業計画】 現行計画策定過程において、高校生を対象にワークショップを開催し、直接意見をヒアリングする場を設けました。</li> <li>・【市学校施設長寿命化計画に基づく学校トイレ整備】 「誰もが快適に利用できるトイレ」の整備を進めるため、学校トイレの形式・仕様について、様々な立場の意見の一つとして子どもの意見を広く収集し、施設の最適化のための参考としました。また、児童生徒がユニバーサルデザインに対する認識を深める目的で、全小中学校から「みんなの学校トイレ」のアイデアを募集しました。</li> </ul>

・【高校生未来プロジェクト（令和6年度）】

高校生が自分の住む街に興味を持ち、自身の提言によって街が変化することで成功体験を積み、若い頃から政治への参画を促します。主体的に新たな取組に挑戦するアントレプレナーシップ(共創の中で新しい価値を生み出す行動特性)を養うことを目的としています。

・【第5次総合計画策定に向けた小中高校生の提案作文募集】

・【コガトーク】

現行の第5次総合計画策定にあたり、小中高生の提案の作文を募集、また、コガトークでは、市長自ら古賀市内の小中学生と一緒に「古賀の未来」を考え、子どもたちの「声」を市政運営に活かすための意見交換をしました。

・【ランチミーティング】

田辺市長就任以来、直接子どもたちの声を聴き、まちづくりにつなげるために給食時間に教育長とともに市内小中学校を毎月1校訪問しています。

・【各種個別計画策定に伴う子どもの意見のアンケート実施】

第2次古賀市スポーツ推進計画、第3次古賀市環境基本計画など各種個別計画策定時に子どもの意見についてアンケート調査を実施しました。

上記についてはこれまでに実施した一例ですが、子どもの意見を施策に取り入れることは、国も重点事項として「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」を令和6年3月に策定しており、そのガイドラインを参考にしながら、それぞれの事業に応じた意見聴取の方法を検討する必要があると考えています。